

1. 第三者評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2893800025
法人名	医療法人社団山中医院
事業所名	グループホームやまなか
所在地	兵庫県宍粟市山崎町山崎5番 (電話) 0790-62-8862
評価機関名	NPO法人ナルク兵庫福祉調査センター
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19
訪問調査日	平成21年7月10日

【情報提供票より】 (平成21年7月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 11人, 非常勤 9人, 常勤換算	15.

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,250 円	その他の経費(月額)	63,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(270000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.4歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山中医院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の山中医院は代々続く古くからの医院で、地域とのかかわりが強く、文字通りの地域密着型施設である。緑豊かな地域にあり、落ち着いた木のぬくもりを感じる和風の施設で、利用者はゆったりといきいきと過ごされている。法人共通の理念が「地域の医療と福祉に貢献する」と表しているように、施設は直接渡り廊下で繋がっており、病気等には迅速に対応できる場所は家族の大きな安心要因となっている。近隣にある幼稚園との交流もあり、保育園・小学校の生徒の定期的訪問も受け入れている。地域に開かれた図書館作りを計画中であり、地域住民とのふれあいの広がりは大いに期待できるところである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	昨年評価を受けて、全体会議で改善点などの検討を継続的に行い、職員全体が問題意識を持ち取り組んでいる。その主たるものは①入浴回数増加②個々人の楽しみ方③廊下、階段、食堂等の間仕切り④フロウリング床の衛生問題の4点だったが、それぞれ改善の目途はついている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価の段階から職員がかかわることで、問題点や改善点などの検討を継続的に行い職員間で常に問題意識を持つようになり、運営推進会議や家族会で、第三者評価結果を報告し、改善方法などの相談を行いながら更なるサービスの向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議では、メンバーである市の職員・社協役員・地域の代表・利用者の家族などから、地域の情報を収集して、利用者が地域の一員として、いろいろな行事に参加できるようにしている。第三者評価の結果を報告して改善点などの相談も行い、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	利用者のほとんどが地域の人であり、家族の来所機会も多く、その都度意見を聞いて近況などを報告している。意見箱を設置して、運営推進会議、家族会での意見と合わせて事業所の運営、サービスに生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホールを開放してふれあい喫茶となり、地域の人もコーヒーを飲みに来て交流の場となっている。現在、子供との交流の場として図書館の有効利用について検討中である。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念として「地域の医療と福祉に貢献する」と掲げられており、家族や地域の人々、職員が出入りする玄関、ホールやフロアにも掲示し、地域密着型サービス事業所として地域との関わりを大切にする思いが伺える		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護の方針5項目を理念と共に朝礼時に復唱し、職員全体で意識の統一に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事等には積極的に参加する他、地域の集いをホームで開いたりして、地域の人と利用者との交流を図っている。 また、近隣の保育園、幼稚園、小学校と定期的な交流の場もある。	○	子供図書館の整備など、交流の準備は行っているが、受け入れの体制が整っていない部分がある。 ホールを開放し子供達に宿題ができるスペースを提供するなど、地域交流のスペースについて出来ることからの実践を提案したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の段階から職員が関わることで、問題点や改善点などの検討を継続的に行い職員間で常に問題意識を持つようになり、運営推進会議や家族会で、第三者評価の結果を報告し、改善方法などの相談を行ないながら更なるサービスの向上につなげている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、メンバーである市の職員、社協役員、地域の代表、利用者家族などから地域の情報を収集して、利用者が地域の一員としているいろいろな行事参加できるようにしている。第三者評価の結果を報告して改善点の相談も行き、サービスの向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの運営協議会や介護予防事業などを通して、グループホームや地域の介護について、サービスの向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の多くが地域住民のため、頻繁に来訪がある、その度に近況の報告や相談をしている。比較的面会数が少ない家族には、適宜電話連絡を行い、毎月、担当職員手書きの写真入りの便りと、職員の異動も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者および第三者の連絡先を明記した一覧表をホール玄関付近に掲示している。また、ホールにご意見箱を設置して、運営推進会議や家族会での意見と合わせて、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎週ホールで2ユニット合同の喫茶を行い、利用者や職員の交流機会を増やすことで、全員が顔馴染みの関係になれるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	兵庫県家庭介護リハビリ研修センターなど、より多くの職員が研修に参加できるよう配慮している。また、内部研修(心肺蘇生訓練、感染症対策、認知症、センター方式、成年後見制度など)は、年間計画立てて実施している。 内部研修は、年間スケジュールを立て計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の催し等への参加を通じて交流を図っている。 また、ケアマネジャー連絡会の会場に事業所を提供して、職員も参加してサービス向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得した上でサービスが受けられるよう、家族の協力を得て、入居前、入居直後の対応に万全を期すように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	習い事や家事・農作業など、利用者の特技を披露する機会を設け、生きがいにつながるように支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを利用して、意向の把握に努めているが、意向を正確に伝えられる利用者は少ないので、家族の意向やご本人の行動などを観察して対処している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のサービス担当者会議で、家族や主治医の意見を参考に、利用者本位の介護計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他、心身の状態変化がプランがとかけ離れたと判断した場合は、本人やご家族と相談の上で柔軟に対処している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体が医療法人であることから、医療処置を受けながらの生活の継続や、重度化した場合の対応など上手く機能している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の医療機関を希望する利用者は無く、毎日の主治医の回診やいつでも受診できる体制がある為、利用者と家族の安心につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対して主治医からの状態の報告、家族の希望に添える医療、ケアについての話し合いができており、法人の特性が出ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録と訪問調査等で確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思決定が自力で行える人はできる限り本人のペースを尊重し、自力で行えず日常生活に支障がある人は家族の思いなども参考に対処している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好について適宜対応していることが、記録と調査日の聞き取りで確認出来た。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の評価での、改善の取り組みを反映し、週2回の入浴が週3回程度入浴となった。見守りを好まれない人は声かけにて確認しながら自力での入浴となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	前回の評価での指摘を受けて、検討の結果、利用者個人個人のニーズに対応できることから取り組み、成果が出始めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行困難な人が多いので、外出の希望は少ないが、極力近隣への散歩や庭にある花の水やりなど日常的な外出を勧めるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価を受けて玄関やユニットの出入り口などは日中開放して見守りを行っている。構造上の問題から扉はしているが、施錠は行っていない。	○	2階部分の階段、廊下、食堂の扉の間仕切りの設置について、構造上の問題があるようであるが、安全優先の観点から根本的な改善策の検討を提案したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訪問調査日の予定では、昼間の防災訓練は7月に、夜間の防災訓練は8月に実施と聞いていたが、評価をまとめる段階で確認したところ、7月3日と8月3日に実施したとのこと。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受けて、食事量、栄養バランス、水分量確保などのチェックが十分に出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回評価での指摘を受けて、運営者・管理者で十分に検討した結果、改善策が講じられていることを確認した。上靴に関して入居者の方にも靴下カバーを使用していただき、職員も含め定期的に消毒、洗濯を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう、入居時に使い慣れたものや好みのものの持込を進めているようだが、施設が新しいこともあり、居室内の家具等は比較的新しいものが多い。		

※ は、重点項目。